

今朝のみ言葉「妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい」は良い言葉だと喜ばれる男性が多いと思います。しかし、「夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会の為にご自分をお与えになったように、妻を愛しなさい」とも書かれています。結婚式の時に朗読された創世記 2:24 の「男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体になる」の「なる」はヘブライ語原典では未来形です。夫婦は長い人生を一緒に生きて初めて完全な結婚が成立するのです。

今日の聖書の箇所は 6:1～4 もセットで、子どもたちに「両親を敬いなさい」と書かれています。子供たちに敬われるのは難しいことです。親の苦労を理解できないまま親の言動から基本的信頼と基本的不信頼を生後8カ月までに形成し、それをベースに生き始めます。親も自分の親から基本的不信頼につながる傷を受けて育っているのかもしれませんが。その親に育てられる子供は基本的不信頼という負の遺産を増幅しながら生き、時代が進むほど親子の亀裂が大きくなって不思議ではありません。どこかで、負の連鎖を断ち切って子供を育てる親にならなければ、この世界から苦しみや悲しみを取り除くことはできません。

昌子武司著「逆効果の心理学」は我々が「心理現象を物理現象と同じように考える癖を持っている」と警鐘を鳴らします。そして親がお説教する度に逆の結果を生み出しているというのです。叱ったり注意をするよりも苦労を認めたり褒めたりする方が自分で解決しようとする力が育って生き生きと生き始めると書いています。キリストも我々を叱らず、十字架に架かって「父よ、彼らをお赦し下さい。自分が何をしているのかわからずにいるのです」と執り成しの祈りをして下さいました。パウロは、「互いに仕え合いなさい」(21 節)と言いました。夫婦の間でも親子の間でも、仕える愛が生きる力を生み出すのです。

人類の歴史は未来の完成に向けて神様が導かれる歴史です。創世記1章には世界が創造されたときに「神はこれを見て良しとされた」と書かれています。人間が創造された時だけ「良しとされた」とは書かれていません。人間はどんな生き方をして神の創造の世界を完成するか期待されつつ問われているのです。人類の生活は少しずつ変化して来ました。奴隷制が無くなり、性に対する差別も変化して来ました。現在の失望感と悲しみを通して平和を構築する決意を新たに、世界も家庭も未来形の完全な姿に向けて試行錯誤しながら進んでゆきましょう。歴史は神の創造の完成に向けて進むプロセスなのでから。